

震災工作車

震災工作車は、大規模地震をはじめとする各種災害において、倒壊家屋や障害物の除去、道路の啓開（けいかい）等の初期救援活動に使用する車両であり、油圧ショベル、クレーン装置などの作業装置を装備している。

当社相模原製作所では、装軌式の震災工作車を開発し、平成8年3月に静岡市消防本部へ納入した。本車両は従来の装輪車では活動困難な不整地を走破可能な装軌車両をベースとし、道路確保に必要な各種作業機を装備している。

以下にその概要を紹介する。

1. 仕様

本車両の外観を図1に、主要諸元を表1に示す。

2. 特徴

(1) 従来の一般装軌車両では例のない高速走行性

- 本車両は可変容量型油圧ポンプ及び同油圧モータの組合せから成るHSTに、2段変速式の終減速機を組合せた方式を採用し、全域自動変速制御により最高速度45 km/hを実現した。

(2) 高い不整地走破性

- 足回りには組立式鉄履帯を装備しているため、大規模災害発生時、路面にがれきが散乱していたり、き裂が発生した状況下においても高レベルの走破能力がある。
- 各転輪はトーションバーに連結されており、凹凸地においても優れた乗心地が得られている。

(3) 各種作業機の装備

- 車両前方には障害物排除用のドーザ装置を装備している。
- 車両中央部には、吊上げ能力2.93 tfのクレーン及び1.5 kVAの発電機を装備している。
- 車両後方には、0.1 m³のバケット容量を有する油圧ショベルを装備している。アタッチメントとして破砕力2.6 tfの破砕機が搭載されており簡易脱着機構により短時間でバケットと交換可能である。
- 油圧ショベル側方にはけん引式レッカー装置が搭載されており、軽自動車から小型トラックまでの積載能力がある。
- クレーン及び油圧ショベルには油圧のサービスポートがありハンドブレーカ等の油圧機器が使用可能である。
- 車両後部にはアウトリガを装備しており、ドーザ装置と並用することによりクレーン及びショベル作業時に車両を安定させることができる。
- 車両後端には最大けん引力3.6 tfの電動ウインチを装備している。

(4) 乗用車感覚の操作性

- 丸型ハンドル、シフトレバー、アクセル及びブレーキペダルの採用によりオートマチックの乗用車と同感覚の運転操作が



図1 震災工作車の外観

表1 震災工作車主要諸元

寸法・重量	全長	(mm)	7 330
	全幅	(mm)	2 490
	全高	(mm)	3 770
	最低地上高	(mm)	355
	車両総重量	(kg)	16 620
走行性能	最高速度	(km/h)	45
	最小旋回半径	(mm)	超信地旋回可能
	超塚(ごう)	(mm)	2 100
	超堤	(mm)	700
	渡渉	(mm)	1 000
作業機性能	接地圧	(kgf/cm ²)	0.57
	ドーザブレード幅	(mm)	2 490
	クレーン吊上げ能力	(tf)	2.93
	油圧ショベルバケット容量	(m ³)	0.1
機関	電動ウインチ最大けん引力	(tf)	3.62
	名称		6 D 22
駆動装置	定格出力 (PS)		320
	形式		HST+2段変速式
懸架装置	形式		トーションバー

可能である。

(5) 公道走行が可能

- クローラの表面にゴムを加硫接着し、舗装路を傷つけない構造になっている。
- 公道を走行するのに必要な保安基準はすべて満たしており大型特殊自動車としてナンバ取得が可能である。

(相製 車両・機器技術部特殊車両設計課 近藤)
 ☎ (0427) 61-2679
 本社営業窓口 航空機・特車事業本部特殊車両部
 ☎ (03) 3212-9589